

—板橋を愛した民俗学者—

櫻井 徳太郎 展



会期 平成20年6月16日(月)～27日(金)※21日(土)・22日(日)無休日
会場 板橋区役所1階区民ホール(東京都板橋区板橋2-66-1)
時間 9時～17時(最終日は15時終了) 主催 板橋区・板橋区教育委員会
問合せ 板橋区公文書館 Tel 03(3579)2291

櫻井徳太郎展の開催にあたって



板橋区長 坂本 健

櫻井徳太郎先生は、第1回柳田國男賞及び第12回南方熊楠賞を受賞された日本民俗学の大家であり、日本宗教史の権威でもあります。

先生は新潟県のお生まれで、昭和21年から板橋区にお住まいになり、板橋区を第二のふるさととして、板橋の地と人びとを深く愛してこられました。しかし、先生は平成19年8月27日に90歳でご逝去されました。板橋区の偉大なる学者・文化人をうない、まことに痛恨の極みであります。

先生の板橋区におけるご指導、ご活躍を振り返りますと、板橋区文化財保護審議会会長、板橋区史編さん調査会会長、板橋グリーンカレッジ名誉学長、板橋史談会会長などの要職を歴任され、区の学術・文化発展に多大なる寄与をされたことが再確認できます。

平成12年、区は先生にご寄贈いただいた3万数千点の蔵書や民俗学資料を収蔵した「櫻井徳太郎文庫」を設立しました。

さらに、先生は平成14年1月に、郷土史や民俗学の研究活動奨励の一助にと区にご寄付をなさいました。区はこのご芳志を基に、「櫻井民俗学研究奨励基金」を設け、「櫻井賞」を創設しました。

このたび、櫻井先生のご遺徳を偲びつつ、写真パネルや遺品を展覧する「櫻井徳太郎展」を開催いたします。本展覧会により先生の民俗学探求と板橋区の文化発展を希求した情熱の一端をご理解いただければ幸いです。

第5回 櫻井賞授賞式



櫻井賞授賞式での先生の講演



板橋史談会での櫻井徳太郎先生



櫻井徳太郎文庫オープニング

略年譜

大正6年(1917)	新潟県北魚沼郡川口村(現、新潟県北魚沼郡川口町)に櫻井藤吉の長男として誕生
昭和4年(1929)	川口村立和南津尋常小学校を卒業
昭和11年(1936)	高田高等師範本科第一部を卒業
昭和12年(1937)	高田師範学校専攻科卒業。高田市立南本町尋常小学校講師に任命
昭和16年(1941)	東京高等師範学校文化第四部(地理専攻)卒業
昭和19年(1944)	東京文理科大学史学科卒業。卒業論文『藤恩思想成立史試論』
昭和19年(1944)	東京高等師範学校助教授に任命
昭和21年(1946)	結婚。東京文理科大学国史学教室助手に任命
昭和21年(1946)	柳田國男先生主催の研究會へ参加
昭和26年(1951)	日本民俗学会評議員に推選
昭和28年(1953)	財団法人民俗学研究所所員、同理事に就任
昭和34年(1959)	『日本民間信仰論』(昭和33年刊行)で東京文理科大学蘭学記念賞を受賞
昭和36年(1961)	東京教育大学文学部助教授(大学院担当)に任命、同年文庫吉氏死去(享年71歳)
昭和37年(1962)	学位論文「地域社会における講の沈着過程の研究」で東京文理科大学から文学博士号を授与。同年日本民俗学会年會において「講集団成立過程の研究」により第1回柳田國男賞を受賞
昭和47年(1972)	東京教育大学大塚史学会会長に選出
昭和48年(1973)	母ツル氏死去(享年81歳)
昭和49年(1974)	東京教育大学文学部教授(大学院担当)に任命
昭和52年(1977)	東京教育大学文学部の閉鎖により、同教授を辞任。同年、駒澤大学文学部教授(大学院博士課程担当)に任命、同年、日本民俗学会代表理事(会長)に選出
昭和53年(1978)	文化庁文化財保護審議会専門委員(第五専門調査会)に任命
昭和56年(1981)	紫綬褒章を授与される
昭和57年(1982)	板橋史談会会長に就任(～平成10年迄)
昭和58年(1983)	駒澤大学文学部長に任命。同年、板橋区文化財保護審議会委員に就任(～昭和60年迄)
昭和60年(1985)	板橋区文化財保護審議会会長に就任(～平成9年迄)
昭和61年(1986)	駒澤大学学長に任命
平成2年(1990)	板橋区史編さん調査会会長に就任。同年、勲三等旭日中級章を受章
平成3年(1991)	駒澤大学名誉教授に任命。同年、日本風俗史学会会長に選出
平成9年(1997)	傘方を閉じ公職を一切辞す。同年、区長感謝状(文化財保護審議会委員及び会長への功勞)、区政功勞者の表彰を受ける
平成11年(1999)	区長感謝状(区史編さん監督に対する功績)。同年、全蔵書資料を板橋区に寄贈
平成12年(2000)	区民文化栄誉賞を受賞。板橋区公文書館付設の「櫻井徳太郎文庫」が公開
平成14年(2002)	板橋区条例により「櫻井賞」が設置。同年、第12回南方熊楠賞を受賞。第1回櫻井賞授与式開催(第5回櫻井賞授与式(平成19年)迄出席、挨拶をされる)
平成15年(2003)	高齢者大学校(板橋グリーンカレッジ)入学式記念講演にて「私の多岐な道」を講演
平成18年(2006)	板橋区立郷土資料館にて「江戸相模のはなし」(10月28日)を講演
平成19年(2007)	8月27日、悪性リンパ腫のため逝去(享年90歳)

主要著作

- | | |
|--|------------------------------------|
| ・『日本民間信仰論』(藤山園、1958年) | ・『日本のシャマニズム 上・下』(吉川弘文館、1977年) |
| ・『講集団成立過程の研究』(吉川弘文館、1962年) | ・『常世の系譜—歴史民俗学の視点—』(共済書房、1977年) |
| ・『神仏交渉の研究—民間における文化接触の問題—』(吉川弘文館、1968年) | ・『結果の原点』(弘文堂、1985年) |
| ・『日本人の生と死』(岩崎美術社、1968年) | ・『櫻井徳太郎著作集 全10巻』(吉川弘文館、1987～1991年) |
| ・『神鏡のシャマニズム—民間巫女の生と死—』(弘文堂、1973年) | ・『坂井徳太郎 民俗探訪 全4巻』(法蔵館、1992～1993年) |

櫻井徳太郎—民俗学の道程—

櫻井徳太郎

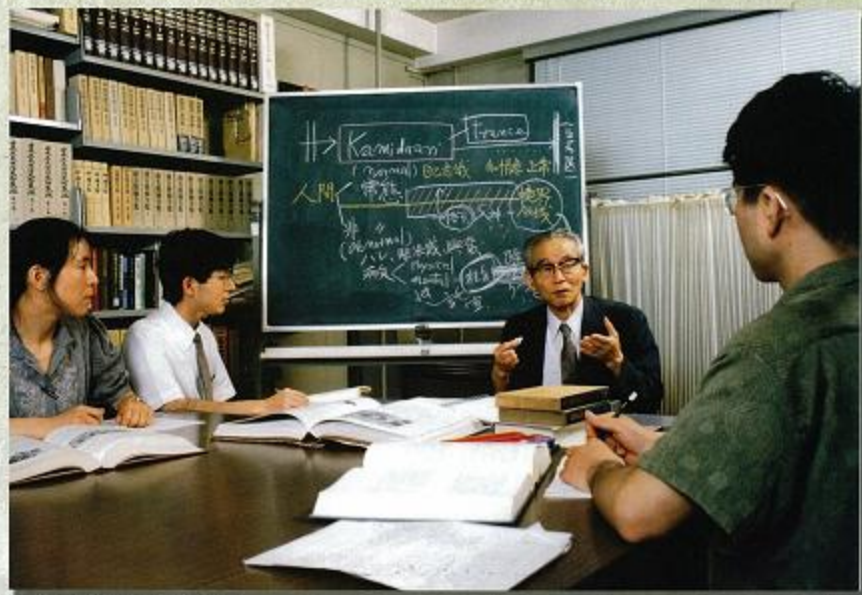
理想と現実との闘争……それが彼の生活史の主題に記述されてあつた。



新潟県高田師範学校 卒業アルバムの一コマ

理想と現実の闘争……それが俺の生活史の五葉に記述されてあつた。
櫻井 徳太郎

アルバムに添えられた一文



駒澤大学ゼミにて 熱心に指導中



師範学校当時軍事教練に参加 (前列右から1番目)



調査活動を詳細に書きつづつたフィールドノート



板橋区公文書館付設 櫻井徳太郎文庫の様子



家族の記念撮影(高田女子中学入学に際し)



櫻井民俗の集大成 櫻井徳太郎著作集(全10巻、吉川弘文館)



区史編さん調査会会長として監修した板橋区史(全8巻)

父・櫻井徳太郎のこと 三谷 昌子(櫻井徳太郎長女)

昨年7月に研究仲間や弟子達から卒年の出版祝いを聞いて載って間もなく、父は私達の元から旅立ち、90年の生涯を閉じた。

若い頃から、全国、津々浦々、才取を惜しんで民俗調査に出かけることが多かった。向かう所は大抵、交通の便の良い山間僻地や離島だった。道幅数十センチほどしかない新築絶壁を横切って、漸く目指す村に辿り着いたこと、また、白波の立つしけの中、母船から木の葉のように揺れる船に乗り移って島に渡ったことなど、私達家族は父の話に大丈夫なのかと心配したが、悪条件も何するものぞと元気に出かけていった。帰って来ると早速、データや聞き書き帳の整理が始まる。旅先での土産話も増えたが、何でも細かくメモをとるので、書物や紙類が積み上げられ、廊下も玄関も、家中が父の資料で溢れそうになった。後に、書庫を造ってどうにか収めようとしたが、あっという間に「田の木阿弥」になる始末。家族の悲鳴に曰く「この資料が僕の大切な宝物なんだよ」と。そのような父を母は秘書のように支えた。書類の整理をし、また家事の合間には読み難い原稿を清書していた姿が忘れられない。

父は大抵の時間を論文の構想を練ったり、何か書き物をして過ごした。幼い頃、書斎での父の様子が知りたくてそっと覗いてみると、大きな音中が目飛びこんで来た。驚いてドアを閉めたが、父は原稿を書いていて全くその音に気付かない様子。周囲の音がほとんど耳に入らないほど仕事に熱中していることが多かった。

小学生の頃、父と新潟の実家に帰省することがあった。家族の旅はめったになかったので嬉しくて朝からうきうき。ところが、車窓にかじりついて外を見ている私の横から父の声がする。「見てごらん、あれが原敬林。季節風から家を守っているのだ。ほら、あの辺は利根川の河岸段丘。畑には何が植わっているかな。そう、桑の木だ。あの中二階のような家が養蚕農家。蚕から絹糸を」などと、「櫻井教室、校外学習編」が続く。うるさくもあったが、お蔭で実地の知識も増えて為になった。

外での飲食をあまり好まなかった父は、自宅に恩師、友人、研究仲間、後輩、学生や出版業界の人々などを迎え入れるのを善しとした。中には、父の話が聴きたくて午前中に来宅し、そのまま夜になり、時計が翌日を指す頃帰宅、という方もいた。時を経て、後輩たちが評価され、社会的にも立派になられるのが父には楽しみだったようだ。

大学の要職を退く前後から少しずつ母にも田かける余裕ができ、父が留守番をする時もあった。勿論、母は本人が困らないように前もっていろいろ支度をして行くのだが、それでも近くに住む私にSOSの電話が何度か鳴った。例えば、炊飯のスイッチをONにしたつもりが保温だったり、洗濯機の使用法を間違えて脱水機能がかんがず慌てたりした。可笑しく思わず口許が緩んでしまうが、この種のハプニングには事欠かない。本人は認めなかったが、機械の扱いがあまり得意ではなかった。

一方、学生時代は運動が得意だったと聞く。それ故かスポーツが大好き。マラソンを始め、野球、ラグビー、駅伝、相撲などのテレビ観戦を好んだ。生涯に渡って大の巨人ファンで、勝てば観戦が良く、負け試合の後にはがっかりして調子が来なかった。自分も試合に参加しているかの如く力を入れて一喜一憂するので、観戦後は応援疲れで一休み、などという時もあった。高校野球やラグビーの早慶、早明戦、箱根駅伝の駒澤大学の雄姿と一緒に楽しんだのも今では懐かしい思い出だ。

父には男の孫が3人。息子のいない父にとっては殊の外、嬉しかったようだ。成長していく姿に目を細め、やさしい、善き「おじいちゃん」でもあった。孫たちのスポーツも熱心に応援した。少年野球の試合には手帳を持参し、克明に試合経過のメモを取る。その姿にコーチも苦笑するほどだった。晩年は、大人になった孫達と食卓を囲んで話をするのを楽しみにした。自分の研究についても大いに語り、孫達もいっばしの意見を述べる。「いい刺激になる」と、嬉しそうだった。

父の信条の一つは、己を律すること。持病を抱えていたが、医者が感心するほどきちんと体調のコントロールをした。どのような苦境に置かれてもそれを克服しようとする心構えが、父の生き方と重なる。病床では、最期まで学者としての気概を失わずに、著作の構想を練っていた。私達に「死とは、自らが無に帰すること」と言い、信頼を寄せていた主治医を始め、周りの者に感謝の言葉を述べて、息を引き取った。

教育に携わる者として、父はこれからの若者達に望みを託した。全ての蔵書や研究資料を長年住み慣れた板橋区に寄贈したのは、地域の方々や学生達の未来の為に少しでもお役に立ちたい、と願ってのことである。その思いを汲んで、文庫設立にご尽力を賜った石塚前区長、また、この度の展示にご配慮下さった坂本現区長や関係者の皆様にも心より感謝申し上げます。



柳田翁(柳田國男)と共に(柳田翁前列右から1番目、氏後列右から2番目)



書斎で記者の質問に答える(北海道新聞社撮影)



第1回 柳田賞受賞メダル



第12回 南方熊楠賞受賞記念トロフィー



櫻井徳太郎文庫のご案内

「櫻井徳太郎文庫」は、昭和27年から板橋区に在住され、「板橋区史」の編纂を長年執筆し、また板橋区文化財保護審議会会長としても活躍された、日本民俗学の大家・櫻井徳太郎（澤大学名誉教授）が、板橋区に對し学術書、研究資料を中心とした約3万数千点の資料を寄贈されたものです。

現在、板橋区公文書館に所蔵、一部を除き閲覧提供しております。



櫻井徳太郎先生（旧公文書館閲覧室にて）



交通機関



都営三田線「板橋本町駅」 「A1」出口には、車いす昇降機付き階段、「A3」出口には、エレベーターがあります。

電車の場合

- 都営三田線
「板橋本町駅」下車 徒歩7分
- 東武東上線
「中板橋駅」下車 徒歩20分

バスの場合

- 国際興業バス
「大和町」下車 徒歩7分
「上宿」下車 徒歩7分

櫻井徳太郎展記念講演会

演題：「櫻井徳太郎先生一人と学問」

講師：佐々木宏幹先生（駒澤大学名誉教授）

日時：6月22日（日） 18：00～19：30

場所：板橋区立グリーンホール2階ホール

〒173-0015 東京都板橋区栄町36-1

問い合わせ先：板橋区公文書館

TEL 03-3579-2291

櫻井徳太郎文庫

（板橋区公文書館付設）

〒173-0001 板橋区本町24-1

TEL 03-3579-2291

FAX 03-3579-2294

URL & E-mail

◆板橋区公文書館 H.Pアドレスを変更
新都区役所ホームページリニューアルに伴い、
本館のH.Pアドレスも変更となりました。

URL http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/000/000987.html

E-mail kbumsho@city.itabashi.tokyo.jp